

企業名： 堀場製作所

レポート名： HORIBA Report 2020-2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

これまで業界で圧倒的な存在感を築いてきた自動車産業では社会の変革に迫られ、苦戦を強いられているが、半導体・IT産業の急速な成長により、様々な収益部門において過去最高を記録した。このことにより、以前と比べてバランス経営が可能となり、成長を実現することができている。異なるマーケットを複数持つ堀場製作所は、これから成長していくであろう市場と衰退が予想される市場どちらにも進出している。しかし統合報告書からは、全5種の市場各々に均等に焦点をあてるあまり、どのビジネスに対してどれほどの労力を割くのかという部分が読み取りづらい部分があり、将来においてどの市場が堀場製作所の主たるセグメントとなっているのかが少々読み取りにくいのではと思った。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

堀場製作所は、主に自動車の排ガス、プロセス・環境の計測、生体外の医療診断、半導体製造の測定をはじめ、研究開発や品質測定などで使われる計測器やシステムを提供している会社であり、主要製品の市場シェア率をこの統合報告書から読み取るに、例えば自動車セグメントの「エンジン排ガス測定装置」については世界シェアの80%、半導体セグメントの「薬液濃度モニター」についても世界シェアの80%、科学セグメントの「ph.メーター」については、日本国内シェアの50%を占めており、多分野において競争優位性を読み取ることができる。そして、顧客についても、自動車メーカー。官公庁、半導体デバイスメーカーなど異業種、多方面存在し、競争優位性を読み取れる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

半導体セグメントにおいては、半導体の需要増加に伴い半導体メーカーにおける設備投資が拡大、半導体製造装置メーカー向けの販売が大幅に増加し、増収増益となった。今後も半導体産業は成長することが見込まれるため、持続性もみられる。一方2019年度まで、売上高・営業利益のセグメント別割合でトップを維持していた自動車セグメントにおいて、2020年、2021年と大きく減収しており、自動車メーカーなどの内燃機関分野における新規設備投資は鈍く、エンジン排ガス測定装置の販売が減少したことを踏まえても競争優位性は維持することができたとしても、斜陽産業となりかけており、今後の修正・研究開発が必要と思われる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

堀場製作所では、研究開発投資に惜しまず投資をしており、社会的に意義がある仕事を行うことができると思われる。また、1960年代後半からはグローバルなM&Aで企業規模と事業エリアを拡大し、今や売上高と社員の60%以上が海外になるなど、海外勤務などの可能性も高い。以上の2点から、堀場製作所で自身の人的資本の価値向上をある程度達成できると思われる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

報告書はグラフ・表・写真などを用いて大変視覚的にとらえられやすいように作られており、素人である自分でもこの堀場製作所がなにをしている会社なのかを端的に理解することができた。しかし異業種の5つの柱（自動車セグメント・環境、プロセスセグメント・医用セグメント・半導体セグメント・科学セグメント）が確立している一方、この報告書内で一部記載はあるが、今後将来においてどの市場に重点的に取り組むのかがわかりにくい部分があったので改善余地があると思われる。また少し曖昧的な言葉で濁らせている部分もあり、明確化することでさらに理解しやすい報告書になると思われる。

参考文献

- 1 HORIBA Report 2021-2022 ([20220606_HR_jp_02.pdf \(horiba.com\)](#))